

共通テーマ 「豊かな言語活動を通じた、小中連携の授業のあり方～英語による発信力の強化を目指して～」

拠点校Ⅰ

(西郷村立西郷第一中学校)



実践の具体的な内容

- オーセンティックな課題の設定
- リフレクションシートの活用
- ICT機器の活用
- 言語活動／振り返りの充実
- 会話を通して、既習の文法事項から推測や共有、試行錯誤し、完成を目指す『練り上げ』の構図を設定した。
- 録音した会話が評価に繋がる『指導と評価の一体化』を図った。
- 小中の連続性を意識できるCAN-DOリストの設定と、生徒との共有化をした。

取組による成果

- 文法事項の習得に必然性が生まれたため、生徒の理解が深まった。
- ICT機器を活用し、生徒たちの会話を蓄積することで、評価へと繋げることができた。また、生徒の振り返りツールとしても活用できた。
- 小中で一貫した7年間分のCAN-DOリストを生徒とも共有することで、自分達が学んできたことの振り返りと先の見通しが容易になった。

拠点校Ⅱ

(西郷村立米小学校)





実践の具体的な内容

- 学習の見通しをもち、主体的に学習に取り組むために、ユニット全体で単元構成を工夫したうえで、毎時間の授業の流れを記載した「単元計画表」を児童と共有した。
- 児童の疑問や困り感を全体で共有するSharingと、新たに獲得した表現をアウトプットするActivityをくり返し行い、中間指導に力を入れた。

取組による成果

- 毎時間の授業の型ができ、どの単元でも同じような授業展開ができたためスムーズに進められた。計画表に習得すべき単語も記載したことで定着率が向上した。
- 自分の持っている語彙を用い、言語面に焦点を当ててより正確な英語で伝えることができるよう、意識してやり取りができた。

共通テーマ 「豊かな言語活動を通じた、小中連携の授業のあり方～英語による発信力の強化を目指して～」

協力校 (西郷村立熊倉小学校)	実践の具体的な内容	取組による成果
	<ul style="list-style-type: none"> □ 児童の実態に合わせた、目的・場面・状況の工夫により興味・関心を引き出す。 □ CAN-DOリストの活用により、これまでの既習事項を用いる。 □ CAN-DOリストの共有により、学習の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする姿を引き出した。 ○ 児童も教師もねらいを明確に持ち、学習を進めることができた。 ○ 既習事項や中学校との接続を意識して、学習を進めることができた。
協力校 (西郷村立羽太小学校)	実践の具体的な内容	取組による成果
	<ul style="list-style-type: none"> □ CAN-DOリストの活用と、単元を見通すための単元構成表を作成し、児童と学習内容を共有して授業を行う。 □ 一単位時間における「聞くこと→話すこと→読むこと→書くこと」の指導過程を継続して行う。 □ 「伝えたい思いをどうしたら表現できるようになるか」を大切にして、場面設定と必要なセンテンスを確認し、児童による発言の不安感をなくす授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ CAN-DOリストの活用と単元構成表を作成したことで、児童と学習内容を共有して言語材料の獲得を目指す授業を展開することができた。 ○ 「聞くこと→話すこと→読むこと→書くこと」の授業展開を継続したことで、学習内容が定着した。 ○ 児童の伝えたい思いを大切にして授業を展開することで、場面に応じた基本的な英語表現を獲得することができた。